

## 広聴広報委員会視察概要

### 【神奈川県川崎市議会】

#### 1 視察日時

令和2年2月4日（火） 午前10時30分から正午まで

#### 2 視察事項

高校生議会について

#### 3 視察の目的

本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会活動の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会などの取り組みを中心に、近年では広聴機能、市民参加について充実を図るべく、市民と議員との意見交換会「みみ丸カフェ2018」の開催や、議会報告会における班形式での意見交換などの取り組みを行っている。

広聴機能、市民参加について充実を図る一方で、若年層の議会活動への関心が十分に得られていない状況である。

川崎市議会においては、市立高校と連携し、協議テーマについて高校生自身の考えや意見を発表できる機会を与えるだけでなく、テーマごとに各委員会に付託し協議を行い、提言案として取りまとめを行うなど、議会の仕組み・活動内容について周知にも取り組まれていることから、この取り組みについて視察し、委員会として今後の広聴広報活動の参考とするため。

#### 4 視察の概要

浅野広聴広報委員長の挨拶の後、川崎市議会局広報報道担当原課長、広報報道担当落合係長、議事課大磯係長から「高校生議会」についての説明が行われた。その後、質疑応答が行われ、川辺広聴広報副委員長の御礼の挨拶をもって視察を終了した。

##### (1) 川崎市議会高校生議会

###### ① 実施目的・ねらい

市内の高校生が「これからも住み続けたいまち・川崎の未来のために」をテーマに、市の理想像について調査・研究・協議を行い、一つの結論、「私たちの提言」を導き出すプロセスを体験することで、議会に対する理解を深め、関心を高めるとともに、市議会議員との意見交換等を通じ、市議会をより身近に感じることを目的としている。

また、公職選挙法の改正により、選挙権年齢が満18歳以上へと引き下げられたことに伴い、選挙の仕組み・意義と市議会との関わりを学ぶことにより、社会に参画する第一歩を踏み出す際の一助となると考えている。

## ② 実施体制

市議会・教育委員会・選挙管理委員会の3者による連携・協働をし、目的としては市議会は「市民に開かれた議会の実現」、教育委員会は「主権者教育の実践」、選挙管理委員会は「投票行動に対する普及啓発」をそれぞれ掲げ、それに向けて事業展開をしている。

## ③ 実施日時・場所

川崎市役所第2庁舎（議会議場及び委員会室）

＜開催実績・参加人数＞

・平成30年1月20日 参加人数33名

| 委員会名        | 協議テーマ                          |
|-------------|--------------------------------|
| 社会・教育委員会    | 「オリンピック・パラリンピック」を通して考えるこれからの川崎 |
| まちづくり・観光委員会 | 「観光事業」を通して考えるこれからの川崎           |
| 福祉・環境委員会    | 「環境保全・公害対策」を通して考えるこれからの川崎      |

・平成31年1月19日 参加人数31名

| 委員会名            | 協議テーマ                  |
|-----------------|------------------------|
| 特別福祉委員会         | 川崎駅周辺のバリアフリー化          |
| 市歌浸透まちづくり活性化委員会 | 川崎市歌を広めることで元気な川崎市を創る   |
| スポーツ生き生き委員会     | 「スポーツ振興」を通して考えるこれからの川崎 |
| グローバル委員会        | 世界中の人が暮らしやすい社会づくり      |
| 交通安全促進委員会       | 交通事故が少ない町へ             |

・令和2年1月18日 参加人数31名

| 委員会名       | 協議テーマ                      |
|------------|----------------------------|
| やさしさ推進委員会  | 誰にでも優しいまち かわさき～ユニバーサルデザイン～ |
| 地域魅力発信委員会  | 地域の魅力の発信の仕方                |
| 生活環境向上委員会  | 「美しく、アートに溢れた町」川崎を目指して      |
| 交通環境向上委員会  | 通勤通学時のストレスをなくす為に通りやすい道をつくる |
| ネット依存撲滅委員会 | ネットに依存することがない都市へ           |

## ④ 参加者

市立高等学校5校（川崎、幸、川崎総合科学、橘、高津高校）の生徒の中から各学校6～8人を選出し、合計で30～40人が参加している。

議会からは、議長・副議長・委員会オブザーバーとして各会派から選出された議員が参加している。

執行部からは、市長・教育長・選挙管理委員会委員長の3名が出席している。

#### ⑤ 当日のスケジュール

午前9時30分主催者の挨拶から始まり、本会議開会、委員会の開会と審査を行い、本会議にて市議会議長に審査結果の報告を行う。

実際の本会議を体感してもらうため、市議会議長が臨時議長として登壇し、高校生議長を決定する。議長となった高校生が登壇し、高校生議長の進行のもと、委員会の設置や委員の選任、協議テーマの設定と委員会への付託など、実際に行われている議事と同様の進行をしてもらっている。

各学校が一つの委員会となり、学校単位で協議テーマ、提言素案を提案（発表）してもらう。委員会は発表校の生徒（2～4人）のほか他校の生徒（各校1人）で構成し、委員会の中で意見交換を行う。各学校が会派であり、その中から高校生委員として生徒が選出されるイメージである。また、委員会には2名の議員がオブザーバーとして参加し、進行の補助を行っている。

学校ごとで集まり委員会の中で出た他の学校の生徒の意見を踏まえ、「私たちの提言案」としてまとめ、委員会は終了となる。なお、提言案の内容については事務局で確認を行っている。

委員会からの提言案については、本会議を再開し、各委員会の委員長報告の後、高校生議員により採決を行い、高校生議会の閉会となる。

その他、市議会をより身近に感じってもらうため議員との意見交換を実施している。また、選挙に関する知識を得ってもらうため、選挙管理委員会による「選挙の仕組み・意義」について講義を受講してもらい、実際の選挙で使用する投票箱や記載台を用いた模擬投票の体験や、選挙の啓発グッズの選定なども行ってもらおう。

#### ⑥ 高校生議会の目標

生徒自らが、授業で行っている課題研究などからテーマを学校ごとに選定し、市の理想像について調査・研究をし「私たちの提言」を策定する。

なお、テーマについては各学校で1つを決めてもらい、内容についての事前学習にも取り組んでもらう。

#### ⑦ 課題

高校生議会への参加については、授業等のカリキュラムの一部になっているわけではなく、生徒の自主性に任せている部分が大きいため、メンバーの選出については各学校でも難しく、実情として参加者が生徒会の委員になっている

### 5 質疑応答

質疑 高校生の選出方法についてはどのような基準で行っているのか。各学校でテーマを決定した後の事前学習についてはどの程度の規模・時間でされるのか。

応答 選出については学校に一任しているが、普通に募集しても参加者が集まらないため、生徒会の委員をしている生徒が多い傾向にある。学年については、3年生は受験等もあるため、1・2年生を中心に参加してもらうことが多い。

テーマ設定については、参加者の多くが生徒会委員であるため、生徒会の会議の中で出てくる校内の状況等から課題を見つけていることが多い。学校によっては、総合的な学習で地域の課題解決という取り組みをしているところもあるので、授業の一環として事前学習を行っているところもある。

質疑 所沢市では10代の投票率が平均的に低く、20代前半で更に投票率が下がるという結果となった。高校生議会を実施するに当たり、若者の投票行動への反映について把握はしているか。

また、実施のねらいにある主権者教育について、実際の投票権があるという意識を若年層に根付かせるための取り組みについて聞きたい。

応答 直近の川崎市議会議員選挙の投票率が41.43%、参議院議員選挙は49.42%という結果だった。10代、20代の投票率が低下しているのは、川崎市でも同様である。特に市議会議員選挙については以前よりも低下している。

高校生議会の実施がどこまで投票率向上に寄与できるかは別問題ではあるが、投票率向上への取り組みについては重要であると考えている。

主権者であることの意識付けに効果があるのは、選挙管理委員会による講義に留まる。高校生議会の取り組みは、市議会議員が担っている役割を理解してもらうことを目的にしており、主権者教育を強調しているものではない。議会で様々な意見を聞き、意見交換することで、社会に対して影響を与えること、何かを変えることができるということを感じてもらうことは、投票行動への意識付けにつながっていくのではないかと考えている。

質疑 最初に高校に働きかける際は、教育委員会と共同で高校生議会を行っていきこうという形で始まったのか。

応答 市立高校5校の校長会へ依頼しているが、その前段階として教育委員会に相談している。また、実施内容についてはカリキュラムセンター（川崎総合教育センターを構成する4つのセンターのひとつ）と協議を行ったうえで、校長会に図るというプロセスを踏んでいる。

質疑 実施にあたって所管委員会はどこか。広聴を所管している委員会になるのか。

応答 当市議会には広報広聴を所管する委員会がないため、議会事務局職員が主体で校長会等に出向いて事務を行っている。

質疑 市内には県立・私立高校もあると思うが、そういったところには参加を呼び掛けているのか。

応答 他の高校にも参加してもらいたいと望んでいるが、各学校とも生徒が忙しい点や、参加する生徒が広範囲になると事前学習に取り組むことが困難になるため、そこまでは至っていない。

質疑 協議テーマ「地域の魅力の発信の仕方」の提言で、川崎市のHPが堅苦しくてご

ちやごちやして見づらいというものがあったが、高校生からの提言が市政に反映されたものはあるか。

応答 提言から市の施策に取り上げられ、成果につながったものはないが、HPについては市としても問題として認識し、これまでも改善してきたが、インターネットに慣れ親しんだ若者の世代には見づらいということが改めて分かった。

質疑 提言の反映についてはどうか。

応答 参考としての提言となっている。採択された請願のように正式な提言として執行部に依頼するものではないので、反映については出来ていない。

質疑 議会に対してではなく、執行部に直接提言を出すということか。

応答 扱うテーマが議会運営についてではなく、街の中のことなので、執行部で扱うことになる。高校生議会で出された提言が市として正式に取り上げられて改善に至るといようなサイクルはまだ構築できていない。

質疑 出された提言は各部署全てに配布されるのか。

応答 参考として配布される。

質疑 市議会、教育委員会、選挙管理委員会のそれぞれの職員の関わり方はどうなっているか。

応答 事前準備等を含めて中心になっているのは議会事務局、教育委員会であり、教育委員会の中でも指導内容を扱うカリキュラムセンターとスケジュールなどの協議を行っている。選挙管理委員会は事前準備にはそれほど関わっていないが、当日の模擬投票や選挙に関する講義などで関わっている。

質疑 議会の広報活動の一環として、様々な取り組みを議員が自らの意思で内容を考えながら試行錯誤して企画し、事務局に手伝ってもらう。そこには議会の意思が働いている。参加者として集める対象も高校生なのか中学生なのかという選択や、テーマ設定、当日の式次第についても議会の判断となる。

川崎市の開催方法の中で、川崎市議会の考え方がどういう形で反映されているのか。

応答 この取り組みを進めるにあたり、立案の段階で正副議長への相談を行ったうえで、各市議団の団長が集まる団長会議にて、開催内容やその途中経過について報告・確認を行っている。当日出席する議員を会派内から選出することも依頼している。

質疑 議会事務局が企画したことを、議会の手承を得ながら進めているということか。

応答 高校生議会や夏休みの小学生対象の子ども議場見学会などは、事務局が若年層への啓発になると考えて進めている。開催する前に団長会議で諮っているが、川崎市議会には広報広聴委員会はないため、広報に関する意見を議員から聞くということがなく、事務局に一任されているため事務局で企画を立案している。

- 質疑 川崎市議会の広報紙は年4回発行しているのか。
- 応答 各定例会の後、おおむね次回定例会が開催されるまでに発行し、町会を通じて送付している。
- 質疑 事業について事務局で進めているとのことだが、議員も関わっているのか、議会側から意見は出ているか。
- 応答 今回の高校生議会に参加した議員10名にアンケートを実施したり、個別に感想を聞いたところ、市立高校のみではなく、私立・県立高校に広めることも良いのではないかというものがあつた。
- 質疑 「川崎市議会の特色ある取組」の中に“夏休み子ども議場見学” “市議会ホームページに「キッズページ」を開設”という取り組みをしているので素晴らしいと思う。対象を小学生から中学生、高校生へとしたことに意図はあるのか。
- 応答 本来であれば主権者教育ということで小学生、中学生、高校生という段階を追った流れも必要かと思うが、現在はそういった流れは出来ていない。最初に夏休み子ども議場見学を開催していたが、高校生議会の開催は満18歳に選挙権が引き下げられたことに伴って、広報の一環として開催している。
- 質疑 高校生議会の提言に「HPがごちゃごちゃしていて見づらい」というものがあつたが、キッズページについては好評なのか。
- 応答 開設してから時間が経っているので、内容については判断できないが、他市からは好評をいただいている。
- 質疑 高校にテーマ設定を行うときに、生徒会担当の教員にも協力してもらっているのか。生徒だけに説明しているのか。
- 応答 我々としても知りたい情報だったので、今回の開催の際にアンケートに項目を設定したところ、教員が付きっきりという学校はなく、生徒主導で行っているところと、教員の手助けがあるところの割合は同じくらいであり、教員が手伝わないと進まなかったところはなかった。
- しかし、難易度の高い内容を依頼しているのか、必要に応じて事務局職員が学校に出向いて説明を行う準備もしている。平成30年度には数回学校に行って生徒と話をしたこともあつたが、各学校が慣れてきたのか今年度は特にそういった要望はなかった。議長や委員長になってもらう生徒には進行等についての説明は行っている。
- 質疑 議長の選出については事前に事務局が行っているのか。
- 応答 選出については校長会で推薦してもらっている。

質疑 高校生議会の日程の決め方についてはどのようにしているのか。また、川崎市議会には広聴広報委員会はないとの説明だったが、議員の意見を反映させるのは団長会議か。

応答 日程について学校に確認したところ、新しい生徒会の委員が決まるのが11月頃とのことなので、開催するのは1月が都合が良いとのことだった。事務局としても定例会の最中では開催できず、夏休み期間は小学生の議場見学会もあるため、1月に開催している。団長会議では高校生議会への出席議員選出等を依頼しているが、今まで変更についてなどの意見は出ていない。

質疑 これまで3年開催しているが、毎年開催について提案しているのか。

応答 毎年開催するか確認している。事務局としても手探りで始めており、高校側もカリキュラムの一部になっておらず、教員の働き方改革や生徒の様々な活動の状況を見ながら、校長会を通して了承を得て開催している。

質疑 資料を見ると参加者に女子生徒が多いようだが、どのような選出方法になっているか。また、各学校に依頼して均等に参加者が出てくるものなのか。

応答 生徒会に参加してもらっているので、各学校でどのような生徒が熱心に生徒会活動に参加しているのか分からないので、男女比についての依頼はしておらず学校が選出した生徒をそのまま受け入れている。

質疑 所沢市でも“みみ丸カフェ”を開催しており、生徒の選出を校長に依頼をしているが、学校によっては選出してくれる生徒数にバラつきがある。川崎市ではそのようなことはないか。

応答 結果としてこちらが希望している人数が集まりますが、そこに至る過程では集まらない学校もある。

質疑 高校生議会当日の議場の傍聴席に保護者が入るのか。

応答 議場での傍聴だけでなく、委員会も部屋の扉を開放し自由に出入りできるようにしており、見学できるよう配慮しているが、家族の傍聴は今のところ少ない。

質疑 高校生議会に出席した生徒は各学校で報告会を行うのか。

応答 報告会の開催については今のところないが、幸高校については高校生議会がカリキュラムの一つになっているので、その一環として行っている可能性はある。そういったところまで広がるのが理想だが、学校側の負担を考えると依頼することは難しい。しかし、広報紙「議会かわさき」は高校生議会に参加した生徒だけでなく、全ての生徒に周知したいので全校生徒分を各学校に届けている。

質疑 アンケートの対象者はどこまでか。高校生議会を開催してよかった点や改善点はどこか。インターネット中継は検討しているか。動画撮影は行ったのか、行っているのであれば市HPで公開することはあるのか。

応答 アンケートについては、生徒用と教員用のもので内容を分けて実施しているほか、参加議員用と職員用も実施している。また、傍聴用も用意している。  
よかった点についてはアンケートを見ると、一定の関心を高める点・知らない生徒どうして話すことができるという体験ができたという教育的な効果があったと生徒・教員から評価してもらっている。改善点については、教員への負担を減らして効果を上げる取り組みにするという点は改善していく必要がある。昨年度から今年度にかけて修正はしているが、事前学習の進め方や時期についても検討し負担感なく取り組んでもらうための改善は必要であると考えている。  
また、参加した生徒はよかったが、それを広く発信することが出来ておらず、インターネット中継等も考えていない。どうやって高校生議会更をより良いものにしていくか検討している段階である。広報についても報道機関に投げかけを行い、記者から開催しましたという事後の記事は出るが、傍聴に来ませんかというような事前周知は行っていない。広く周知するよりは高校生に議会を知ってもらうことが目的となっている。

## 6 所感

川崎市には市立高校が5校あり、教育委員会が議会と執行部、高校生をつなぐ役割を果たしていて、高校生議会を開催できていることは素晴らしいと思いました。

また、高校生が川崎市の理想像を考え自らテーマを決め、話し合って提言（素案）を作成し、委員会の中での意見交換や本会議で採決する体験をすることは、様々な展開に結びつきやすいと感じました。

所沢市議会でも高校生や大学生、若い世代を対象とした意見交換会の「みみ丸カフェ」を開催している。その際、高校生の参加を依頼するために、当時の広聴広報委員長と副委員長が市内の県立高校を訪問するなど参加者の召集に苦慮している状況であるが、市立高校がある川崎市は教育委員会、市長部局、議会が連携できていると感じました。

広聴広報委員会では、所沢市議会が高校生との交流を図るためには、議員が市内にある高校に出向き、出前講座のようにテーマを決めた議会報告会の開催など、高校生を対象とした意見交換会などの取り組みの意見も出ているため、川崎市議会の高校生議会の取り組みは大変参考になりました。

川崎市では、市長・副市長を含む執行部の協力をいただいで、この事業が成り立っているとのことであり、今後、所沢市議会も市長をはじめとした執行部、教育委員会の協力を得られるように努力し、高校生を対象とした取り組みを進めるために、高校への説明をするなど協力を得ていきたいと考えます。

川崎市議会には広聴広報委員会のような、議会として市民の意見を聞く委員会の設置がなく、議会報告会も実施していないことから、議会の見える化、市民の声を聴く活動を議員が先に立って実施している所沢市議会との違いを大きく感じました。

## 【滋賀県彦根市議会】

### 1 視察日時

令和2年2月5日（水） 午前9時30分から午前11時まで

### 2 視察事項

子ども議会について

### 3 視察の目的

本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会活動の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会などの取り組みを中心に、近年では広聴機能、市民参加について充実を図るべく、市民と議員との意見交換会「みみ丸カフェ2018」の開催や、議会報告会における班形式での意見交換などの取り組みを行っている。

広聴機能、市民参加について充実を図る一方で、若年層の議会活動への関心が十分に得られていない状況である。

彦根市議会においては、市内小学生を対象に政治への関心を深め、市の将来について考える機会を与えることで、社会参画への関心を高め、今後の社会づくりに必要な人材の育成に取り組まれていることから、この取り組みについて視察し、委員会として今後の広聴広報活動の参考としたい。

### 4 視察の概要

彦根市議会安澤副議長から歓迎の挨拶、浅野広聴広報委員長の挨拶の後、彦根市議会視察対応プロジェクトチームの上杉議員、中野議員、小川議員から「子ども議会」についての説明が行われた。その後、質疑応答を行い、川辺広聴広報副委員長の御礼の挨拶をもって視察を終了した。

#### (1) 子ども議会について

政治への関心を深め、また、彦根市の将来について考えることを目的に、平成21年2月14日に第1回が開催された。

議会改革の取組の一環として、平成24年1月に無作為抽出した市民3,000名を対象に「議員に関する市民アンケート」を実施したところ、「市議会に関心がない」「市民との対話の場がない」「議員の活動内容がわからない」などの意見が寄せられたため、わかりやすい議会を目指し、広聴広報機能の充実のため議場開放促進委員会・広報委員会・広聴委員会を設置した。

その中でも議場開放推進委員会では市民に開かれた、わかりやすい議会の実現に向けて、市民が議場を身近なものと感じ、より多く来場してもらえる行事を検討している。

主な事業としては議場コンサートや子ども議会、中高生傍聴がある。

#### ① 子ども議会の目的と対象者、体制について

小学生が政治への関心を深めたり、社会参画への意欲を培うこと、保護者に市議会や行政の取組をより身近なものと感じてもらうために開催している。対象は市内にある小学校17校から最大24人に参加してもらっており、今年度は22名が参加した。運営は議会が行い、執行部が企画を取りまとめ、教育委員会が学校との調整を行い児童の選出や質問作成を行うなど、三者共催で開催している。

## ② 開催までの流れについて

### <スケジュール>

4月下旬に議会開放促進委員会にて子ども議会の開催を決定し、教育委員会・執行部・議会事務局と打ち合わせを行う。

6月上旬に開催要項・応募用紙を送付し各学校に依頼する。

7月末に質問要旨が記載された応募用紙を回収し、事前研修会※1を開催する。

9月に生徒からの質問の原稿が確定したら、教育委員会・学校教育課に提出してもらっている。また、教育委員会・執行部・議会事務局で再度打ち合わせを行う。

9月下旬までに議会事務局で質問事項のチェックを行う。

10月上旬に原稿を議会事務局から執行部へ提出する。

10月下旬、執行部には実際の議会と同様の答弁を作成してもらう。

本番一週間前には子ども議会のリハーサル※2を行い、11月中旬に本番を行う。

11月下旬に子ども議員・保護者からアンケートを回収している。

### <事前研修会>

以前は質問書の作成を各学校に依頼していたが、教員への負担が大きく、学校ごとの質問の量や質に差があったため、平成26年から実施している。

(実施内容)

- ・子ども議員選出書交付式
- ・市役所の仕事について議会事務局から説明
- ・議員から質問の仕方、質問書の作成方法の説明

これらの説明を受けた子ども議員が質問内容を考え、通告書の作成を行う。質問内容については教育委員会や議会事務局の協力のもとで、執行部への問い合わせも行う。教員の代わりに教育委員会が対応しているため、現場の教員の負担は減少したが、教育委員会が質問等の調整を行うなどの負担があるのが現状の課題となっている。

### <リハーサル>

議長の選出や議席の決定、議員によるデモンストレーションの見学を行い、当日の子ども議長に進行方法を確認してもらっている。

### <当日>

市長、副市長、教育部長、正副議長。子ども議員による写真撮影を行い、全体を3つのグループに分け、それぞれのグループの子ども議長が議事を進行する。子ども議

員からは市政全般にわたる質問があり市長や各担当部長が定例会と同様に答弁を行っている。議長の許しを得て、ボードなどで資料を提示して質問する子ども議員もいる。

議員は子ども議員のサポートや傍聴人の誘導などを裏方として活動している。当日の様子はDVDに映像を写し、教育委員会を通じて各家庭に送付している。

③ 子ども議員の提案結果について

提案がきっかけとなって実現したケースはないが、今年度は提案に対して検討する旨の答弁が副市長からなされた。

また、過去には学校の空調設備についての改善が提案され、各党派で検討を行ったこともあった。

④ 費用について

・予算額 112,040円

(消耗品費：15,000円、会場使用料：97,040円)

・決算額 83,790円

(消耗品費：6,000円、会場使用料33,790円、手数料44,000円)

⑤ 開催の効果について

子ども議会終了後のアンケート結果では“市役所や議会に関心を持ったか”については約8割が「関心を持った」となり、取組を通して感じたこととしては質問をつくるのが難しいと感じた児童が約9割となった。

⑥ 課題と効果について

<課題>

- ・開催には教育委員会の協力を得て、成り立っているところが多く、教育委員会の担当者の熱意によって協力姿勢に差が生じている。
- ・児童の送迎にバスを使用しているが、市内小学校17校を周ることに3～4時間要するため、可能な限り保護者に送迎を依頼している。
- ・教員に議会に関心を持ってもらえないと、子ども議会を良いものにしていくことは難しい。
- ・市内に17校あるが参加できる児童は最大24人なので、参加できなかった児童に対しての配慮はどのように行っていくか。

<効果>

- ・子ども議会を通じて、児童が議会や市政に関心を持つきっかけになった
- ・親御さんなども参観するので議会や市政を身近に感じる

## 5 質疑応答

質疑 児童にとって議会と言われても理解してもらうのは難しいと思うが、子ども議会に児童を募集する際の方法について聞きたい。質問を作成する際に、所管についての説明はどのように行っているのか。

応答 一昨年に広報委員会にて子ども議会に関するパンフレットを作成し、1時間程度授業で取り扱ってもらった。平成21年から開催しているので、親御さんや兄弟から聞いて自然に伝わっている部分もある。質問については執行部・教育委員会・議員が事前学習で説明している。

質疑 質問事項を選ぶ際にかかる時間はどのくらいか。政治に関心の低い教員に対しての説明についてはなにかあるか。子ども議会など議場の利用に対して開催当初に反対はあったか。今後、議場の利用についての検討はあるか。

応答 質問の選択については児童が原型を持っていることが多いため、概ね1か月程度ではないか。教員の理解については委員会でも議題にあがっており、今後検討していきたいと考えている。議場の利用について、反対するような意見もあったが、来ていただいた市民に聞いたところ好評をいただいている。今後についてはコーラスや葦笛、盆踊りなど、各委員会を出し物を検討している。

質疑 参加を希望した生徒の担任が面倒を見ているのか、社会科の事業の一環として位置づけしているのか。

応答 生徒の担任が指導している。事前学習を教育委員会で支援するまでは担任の教員がサポートしているが、本番は担任の教員も参加している。政治の学習を6年生の1月頃に1時間程度行っているが、それ以上には至っていない。来年度から4月頃に開催時期が変更となった。子ども議会募集の時期と一致しているので、政治の学習の中で少しでも興味を持ってもらえればと思っている。

質疑 中学生、高校生傍聴ということで、どのように学生の傍聴を実現させているのか。

応答 中学生傍聴については生徒会の委員に見学してもらい、その後懇親会を開催している。高校生については市内の私立高校2校の生徒会から参加してもらっている。また、彦根市内に大学は3校あるので大学生の傍聴もある。

質疑 議会と執行部・教育委員会との連携について開催当初、議会側から働きかけたのか。

応答 議長の発案により開催を検討し、議会から市長等に依頼した。

質疑 議会報告会の参加状況について。高校に出向いて開催するようなことはしているか。

応答 今まで様々な団体に出向いて報告会を開催するということはしてきた。現在は3つの常任委員会でテーマを決めて、視察報告等も交えながら開催している。

## 6 所感

彦根市議会では、子ども議会や中高生傍聴など若年層を対象とした取り組みを行っている。

子ども議会は、小学生の政治への関心を深めることに加え、彦根市の将来について考えることを目的に開催している。さらに、子ども議会を傍聴に来る保護者にも、議会に興味を持ってもらおうという狙いもあり、若年層の議会活動への関心を持ってもらう上で、今後の広聴広報委員会の取り組みにおいて非常に参考になりました。

子ども議会の運営は議会が行い、執行部が企画を取りまとめ、教育委員会が学校との調整を図り、児童の選出や質問作成を行うなど三者共催で開催していました。この三者共催が毎年実施出来る土台となり、11回持続している事は素晴らしいと思いました。

また、子ども議会の様子は議会だよりに掲載される。兄弟で兄か姉が参加したら、家庭で会話が生まれることに加え、自分も参加したいと弟や妹も思い参加希望をする。また、上級生が参加する姿を見て、自分もと思う下級生がいて良い伝統につながっていると感じました。

昨年の子ども議会で、「彦根城を世界遺産にしましょう」との質問者の子どもの提案に対し、答弁者の副市長が「しっかりと取り組んでいきたい」と発言したことについて、自分の住む市を誇りに思える子ども達がいるのは素晴らしいと思いました。

彦根市議会の議会報告会は、これまで3つの委員会がテーマを決めて様々な団体に出向いて報告会を開催しているとのことで、これについても大変参考になりました。